

令和五年度 一般入学試験問題

国語

◎ 指示があるまで開かないこと

北海道社会事業協会 帯広看護専門学校





問題一 次の文章を読んで、設問に答えよ。

ルイス・キャロルの名作『鏡の国のアリス』に、赤の女王というキャラクターが登場する。女王が休みなく走り続けているのを不思議に思ってたアリスが尋ねると、女王はこう答える。――「この国ではね、同じところに留まるためには、つねに走り続けていないといけないのよ。」

これは私たち人間をはじめ、あらゆる生命のありよう、<sup>a</sup>「生きる」ということの本質を表現した比喻でもある。

私たちのからだは毎日、二〇〇〇億もの細胞が新しく生まれ、また死んでいるという。分子生物学者の福岡伸一氏によれば、私たちのからだを構成するタンパク質も、とてつもないスピードで入れ替わっている（食物のタンパク質は即座にアミノ酸というパーツにまで分解され、人間のからだを構成するタンパク質へと再構成される）。ミクロの次元では、私たちはつねに流れ、入れ替わり、循環しているわけで、あなたは昨日のあなたではない。

いいかえれば私たちは日々、「新品になり続けている」わけだが、考えてみればこれは驚くべきことだ。机であればクルマであれ、身のまわりのモノで、人知れずその部品や構成分子を入れ替えて日々「新品になり続けて」いるものがあるだろうか？ だが、そんなとんでもない魔法を、私たちのからだは日々当たり前のように行っている。

毎日、自らを創り直しているからこそ、少しずつ「成長」して、かたち（プロポーション）を微妙に変化させながら、大きくなることもできる。実際、クルマや机は「小さく産んで、大きく育てる」なんてことはできない。

また、どんなに老いた人でも、その新陳代謝の速度が赤ん坊にくらべて多少遅くなるだけで、日々新品になり続けていることにはかわりはない。エントロピーの法則にしたがって壊れるよりも速く、自らを創造的に壊し、再生しつづけることで、劣化や変異・ガン化も消去しつつ、健康に生きることができ<sup>1</sup>る。いわば A（ゴミを残さず劣化した細胞を消去する細胞の自殺プログラム「アポトーシス」は現代の生命科学研究のもっともホットなテーマだ。この点だけとつても、<sup>1</sup> はいきぶつ 問題を抱えた現代の産業社会は「生命のデザイン」から多々学ぶことがあるはずだ）。

<sup>b</sup>こうして「あなたは昨日のあなたではない」にもかかわらず、「昨日と同じあなた」であり続けられるという点が、さらにまた驚くべきところだ。クルマや机が昨日と同じであるのは当たり前だが、変わり続けているあなたが昨日と同じあなたでいられるためには、<sup>2</sup> 各々の場所でふさわしいタンパク質や構造を再生産しつづける細胞の自己複製プログラムが極めて正確に働いていることが前提になる。

この正確なコピー（複製）を<sup>3</sup> 担っているのが「遺伝子」（DNA）という一種のデジタル情報システムである、という認識が二十世紀の最大の発見であった。

変わり続けるあなたが「昨日と同じあなた」でいられるために（細胞複製）、あるいは当たり前のように「B」として生まれるために（個体複製）、生命は「誤りを排除する」<sup>4</sup> 正確な情報機構を持たねばならなかった。逆に言えば、コピーミス＝情報の劣化を排除する高度なデジタル情報系を四十億年近くも前に獲得したからこそ、生命システムは自らの生命を存続させ、子孫を残すことも可能になったのだ。

C “誤りの排除”を基本としつつ、生存に関わらない程度の変異は多様性として蓄積するという、ちょうどいい加減の柔らかさ、<sup>4</sup> きょうよう “をとまなつていたからこそ、生命は自己複製しつつ、長い年月のあいだに少しずつ「分化」「進化」し、かくも多様な生命がこの惑星に繁栄することになった（完璧な自己複製では「進化」も「分化」もありえない）。

生命という「アナログ」は、このように究極の「デジタル」なのだ。現代のデジタル技術が冷たく機械的で、生命の柔らかさや温もりとは対極にあると感じられるのは、たんに人間のデジタル技術がまだ未熟で硬いからにすぎない。デジタルの進化形、いわば「未然形のデジタル・テクノロジー」が、私たちの体内で日々音もなく作動して、私たちを日々「新品」へと壊し＝創り続けている。

これが二十世紀という知の⑤ ばくはつ の時代を経た私たちの、新たな自己認識である。

また他方で、コンピュータ技術やAI（人工知能）・ロボットが進歩するほど、さまざまな生物が当たり前のように行っている情報処理、さらには人間の脳やからだのもつ高度な能力があらためてクローズアップされつつある。生物に学ぶ技術（バイオ・ミメティック・テクノロジー）、D 人間固有の柔らかさや\*creativityをもっと引き出す方向での技術開発への志向が顕著になってきている流れもある。脳のもつ驚くべき可塑性や再生能力も近年注目されており、脳をコンピューターや情報機械になぞらえるような⑥ ようち な見方も影を潜めつつある。とりたてて何もしていなくても、私たちのからだの中ではこのように信じがたく創造的なプロセスが日々すごいスピードで進行している。こうして生きているだけで、どれだけとてつもないことか。そして現代の人類は、このありふれた日常のありがたさを自己認識しうるだけの知性を、（古代の精神文化とはまた違った次元で）新たな可能性の地平において開きつつあるのだ。

二十世紀はとてつもない愚行と倫理的⑦ 墮落 の世紀でもあったかもしれないが、私たちが人類としての新たな価値観と自己認識を獲得する大きな飛躍の世紀でもあった。その意味で、二十一世紀は「生命の世紀」そして「新たな人間の発見」の世紀となるだろう。

（竹村真一『地球の目線』）

（註）\*creativity 創造性。

#### 設問一

内①～⑦の平仮名（ひらがな）は漢字に、漢字は平仮名（ひらがな）に書き換えなさい。

#### 設問二

A には、どんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われる語句を一つ選び、記号で答えなさい。

さこ。

- ア 不要なものを消去していくことで、より良いものへ変わっていく
- イ 毎晩眠りにつくたびに死に、翌朝目を覚ますと生まれ変わっている
- ウ 日々「死」に続けることで「生」が担保されている
- エ 日々生まれ変わるのに忙しくない人は、日々死ぬのに忙しい
- オ 「死」を拒むことで「生」を維持するという基本的なシステムが働いている

#### 設問三

B に入る慣用表現として最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一寸の虫にも五分の魂
- イ トビがタカを生む
- ウ 親の光は七光
- エ 三つ子の魂百まで
- オ カエルの子はカエル

#### 設問四

C、D には、どんな接続詞（つなぎことば）が入るか。次の中から最も適当と思われる語

をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア しかも
- イ あるいは
- ウ ただし
- エ なぜなら
- オ しかし

設問五 右に傍線部のある語句(1)「に」と文法的な用法が同じものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア まるで王様のように振る舞う。

イ 彼なりに責任を感じているのだ。

ウ その議題は後回しにしましょう。

エ 再開発が進み、駅も立派になった。

オ たんに金銭だけの問題ではない。

設問六 右に傍線部のある語句(2)「繁栄」と反対の意味を表す二字の熟語(対義語)を書きなさい。

設問七 右に傍線部のある語句(a)「つねに流れ、入れ替わり」という意味を表す語を、本文中から四字で書き抜きなさい。

設問八 右に傍線部のある語句(b)「『あなたは昨日のあなたではない』にもかかわらず、『昨日と同じあなた』であり続けられる」のはなぜか。その理由を、本文中の語句を用いて三十字以内で説明しなさい。

設問九 右に傍線部のある語句(c)「さまざまな生物が当たり前のように行っている情報処理」とは、どのようなことか。本文中の語句を使って、四十字以内で具体的に説明しなさい。

設問十 右に傍線部のある語句(d)「現代の人類は、このありふれた日常のありがたさを自己認識しうるだけの知性を、……新たな可能性の地平において開きつつある」ことの説明として最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 現代の未熟なデジタル技術が進歩することによって、生物の「分化」や「進化」の謎を解明し、人間がコンピュータ技術やAIよりも優れていると証明できるということ。

イ 遺伝子の働きに関するさまざまな発見に基づき、生物に学ぶ技術や人間固有の能力を引き出すための技術などに関する研究が進められているということ。

ウ 人類は、二十世紀に「遺伝子」という最大の発見を成し遂げたことによって、それ以前の愚行と倫理的墮落を覆すほど急速に進化しようとしているということ。

エ 人類の遺伝子が、『誤りの排除』という高度なデジタル情報システムを獲得したことによって、細胞レベルでの精確な自己複製が可能になり、寿命が延びているということ。

オ コンピュータ技術やAIやロボットなど、現代のデジタル技術が進歩したおかげで、人間の脳やからだのもつ能力を解明し、新たな価値観と自己認識を獲得できるということ。



問題二 次の文章を読んで、設問に答えよ。

まだ元気で病棟の入院患者を担当していたころの私見でしかないが、父親が末期の癌だと診断されたとき、息子たちの多くは、あとのくらしいものか、と医者に聞いてくる。娘の場合、どうすれば助かるのか、と詰問口調になるケースがほとんどだった。患者の予後の悪さに関する説明では、娘には息子の三倍の時間を要するのが常だった。

夫が死にいたる病いにかかってしまったと告げられたときの妻の反応は、彼女が老いていればいるほど鷹揚で、死の直後は予想外に① **ひたん** にくれるのだが、やがてみずからの高血圧の治療で外来に通つてくると、夫の看病をしていたころより明らかに顔色がよくなり、声に力がよみがえり、

「入れ歯がないけど、どうされたのですか」  
と、聞けば、

「それがさあ、あんまりからだの調子がいいから、久しぶりに畑の草むしりしただよ。夢中になったもので、下を向いているうちに入れ歯が落ちちまったのに気がつかなかっただよ。うちに帰って、昼寝してから、漬物でも食うかって口に入れたら、入れ歯がねえのに気がついてさあ。あれあれ、そうだ、畑で落としただなんて、畑に行つてみたら、息子がトラクターで土をおこしちまって、入れ歯が畑の② **こ** やしになっちゃっただよ」

と、歯のない口をおおらかに開けて答えてくれる。

一方で、肺気腫で息切れの目立つてきた夫を連れてくる老婆は、

「この人は若えころっから、田んぼと畑で働くしか(2) (a) がねえ人だから、こんな病気で寝込まれちゃったら困るよう。すうつと逝つてもらわにゃあ。こんなでけえ人に寝込まれちゃったら、あたしの身がもたねえからさあ」  
と、夫の横で笑顔で語り、夫は診察用の椅子に座ったまま、長年の諦念がくり上げたような奥深い微笑をたたえて無言でうなだれている。

あなたはグランドマザーコンプレックスだ、と指摘してくださる方もいるが、仕事場である病院の外来でこうした雄弁な現実にとさらされ続けている日々、タフな老婆たちを前にして、恐れと③ **羨望** (a) 以外のいかなる感情を抱けばいいのだろう。

車椅子に乗ったまま外来に入ってきた老婆に、いきなり蹴飛ばされたことがある。もともと、筋力が弱っていたから、向こうずねにわずかに足先が触れた程度のことではあったが。

(b) 「どうして蹴るんですか」  
恨めしげに見つめる老婆の目を④ **正面** から見て、問うた。

受診者に威圧感を与えぬよう、白衣は着ず、なるべく斜めから視線を送る習慣がついているのだが、声は商売用の⑤ **おだ** やかさを保てたのに、とっさのことで注意の行き届かなかったからだの、腰のあたりの筋肉が反応し、患者と正対してしまった。

「嘘ばかりつきやがって」  
老婆のほうが **A** 。

なんてこと言うんですか、と付き添う嫁があわてて老婆の肩を叩いた。  
「だれかの世話になるようになったら⑥ **しせつ** に入れてくれてっていう話だったら、息子さんや娘さんに相談したら、そんな必要はない、自分たちが面倒をみるっていうことだからそうしたんですよ。わたしはあなたの子供じゃないから、その決定に余計な口は出せませんよ」

この老婆と何か約束をしただろうか、とカルテを前のほうにめくってみると、たしかにそのような希望が記されていたが、それはこれまで一人暮らしでずっとがんばってきたときのもので、今回の肺炎による入院で状況は変わっ



た。

救急車で運ばれてきたとき、あなたの判断で現状復帰の見込みがないようだったらICUには入れず、ふつうの病室で看取ってほしい。こんな具体的な要求が記載されているカルテもある。こういう要望を口に出すのはすべて女性で、男性からは聞いたことがない。

「そんなことじゃあねえよお。まあ、小説なんぞ書く人だけあって、しらばっくれるのがじょうずなこと」

老婆は、B。

「言ってくれなきゃ分からないですよ。何百人も患者さん診てるんだし、カルテにも書いてないんだから」  
体調の悪いころだったら、すでに気分の悪さに耐えかねて席を立っているだろうな、と思いつつ、そういえば、あの時期、こういう⑦奇妙な訴えは少なかったな、と気づいた。向こうもきちんと相手の体力を見極めてパンチを繰り出しているのだ。

「いざとなったら、楽にしてくれるって言ってたじゃねえかい。いつも言ってたじゃねえかい。その約束のことだよお」

老婆は低く、鋭く言い放った。

なに言ってるんですか、そんなことしたら、犯罪になっちゃうじゃありませんか、と嫁は正論で諫めてくれた。そして、あたしと暮らすのがそんなにいやなんですか、とC。

「みなさいよお」

声には出さず、あごをしゃくって、床にしゃがみこんで泣く嫁のほうを指した。

「ばーか」

老婆も困ったような顔でかすれ声を出してから、最初るときよりずっとD 感じてこちらのすねを蹴った。

二人で同時に、E。テレビドラマならここで笑いあってハッピーエンドだな、と思ったが、嫁は泣きじゃくったまま車椅子を押し、老婆は苦りきった表情を和らげることなく外来を出ていった。

(南木佳士『熊出没注意』)

設問一  内①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二 右に傍線部のある語句(1)「詰問」の意味として最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 放心状態で、集中できないこと。
- イ 厳しく問いただすこと。
- ウ 粘り強く質問し続けること。
- エ なかなか核心に触れないこと。
- オ 恐る恐る尋ねること。

設問三 右に傍線部のある語句(2)「働くしか」( )がねえ(ない)が「働くことしかできない」という意味の表現になるように、( )に最も適当と思われる漢字一字を補いなさい。

設問四

A	E
---	---

には、どんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われる語句を一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 号泣した
- イ へっ、と舌を出した
- ウ 遠慮した
- エ 大きく肩で息をした
- オ 身をよじってはすに構えた

設問五

右に傍線部のある語句（a）「こうした雄弁な現実」とは具体的にどのようなことか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 患者は医者 of 言うことをなかなか聞こうとしないこと。
- イ 年を取った人間は、配偶者の病や死別に動じないということ。
- ウ 病院に来る年配の女性には、口が達者でたくましい性格の人が多いこと。
- エ 医者である自分は、老婆について甘い態度をとってしまいがちなこと。
- オ 病気が発覚した場合、本人よりも配偶者の方が動揺すること。

設問六

右に傍線部のある語句（b）について、このときの筆者が抱いた気持ちとして最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 同情    イ 神妙    ウ 怒り    エ 親愛    オ 懷疑

設問七

右に傍線部のある語句（c）について、このときの老婆の気持ちとして最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 周りに迷惑をかけないよう死を望んでいたのに、かえって家族を泣かせてしまつてやりきれなくなっている。
- イ 誰かと一緒に暮らすことが面倒だと考えていたので、いつそのこと医者から入院を勧めてほしいと考えている。
- ウ 家族に泣かれてしまったことで自分の間違いに気づき、これからは遠慮することなく家族に頼ろうと決意している。
- エ 泣き出してしまった家族の扱いに手を焼いてしまい、居合わせた医者も適切なアドバイスをしてくれず、落胆している。
- オ 楽にしてくれるという約束を破られたことを不満に思っていたが、結果的に家族と過ごす時間が増えることを感謝している。

設問八

医者である筆者と患者である老婆の信頼関係をうかがわせる一文を、四十字以内で書き抜きなさい。



